Wix サービスを用いた Web サイト構築課題による地域連携授業の実践と課題

Practice and Issues of Class with Community Collaboration by Web Site Construction Task Using Wix Service

鷲尾　敦
Atsushi WASHIO
高田短期大学
Takada Junior College
Email:washio@takada-jc.ac.jp

あらまし：高田短期大学は、真宗高田派の本山専修寺の寺内町である一身田寺内町との連携事業を進めている。筆者が担当する科目「ネットワーク活用」においては、平成 27 年度は一身田寺内町の紹介サイト、28 年度は一身田寺内町にある商店の Web サイトの構築を課題として、学生と一身田寺内町との連携を行った。サイト作りは、Wix サービスを用いた。地域連携の具体的な課題と Wix サービスを用いることで、現実の世界で実際に採用しえもらえるレベルの作品ができるリアルな実践課題となった。一方で、課題が単発的であり、運用という継続的な支援をいかにしていくか、評価をどうするかが課題となった。
キーワード：地域連携，Wix，クラウドサービス，ネットワーク活用、サービスラーニング

1.　はじめに

大学の 7 つの機能に社会貢献機能がある(1)。高等教育機関が大学の持つ知財を地域に還元、地域の発展や問題解決に貢献することが求められ、各大学がそれぞれの特徴を活かし積極的に貢献事業やプロジェクトを進めそれが活発化している(2)。筆者の所属短大においても、学科・コースや研究センターが地域連携を進め、企業や自治体と包括的連携協定をむずびながら、個々の連携事業を強化しようとしている。その一つに一身田寺内町との連携事業がある。真宗高田派本山専修寺の寺内町である一身田地域との連携で、「一身田印」ブランドの立ち上げに教員や学生が取り組んでいる。

2.　「ネットワーク活用」

学生が学んでいることを地域貢献に活かすことにより、専門能力の実践力を身につけ、学習課題を発見し、さらに専門能力を活かす汎用力を身に付けることができる貢献学習、いわゆるサービスラーニングが多くの大学で進められている。

「ネットワーク活用」は、キャリア育成学科オフィスワークコースの 2 年生を対象とした科目で、「クラウドサービスを活用してネットライフを高め」ることを目指し、「①インターネット上の各種クラウドサービスでできる機能と効用を理解し、利用することができる。②インターネット上のサービスを活用するにあたって、情報セキュリティや情報モラルについての理解と正しい利用姿勢を身につける。③ネット上のサービスを学業、生活、将来の仕事に活用できる能力と態度を身につける」を到達目標としている。2016 年度開講した 15 回の内容は表 1 の通りである。

この授業は、2014 年度より開講し、2016 年度から 2 年生前期に開講となった。今後の学習活動、とりわけ卒業研究で役立つものや社会生活を送る上で役立つと思われるネットサービスを取り上げて、活用できる内容にしている。アカウント取得を実際にさせ、情報セキュリティやマナーについての学習もネット上の教材を用いて行っている。

表 1　2016 年度「ネットワーク活用」の流れ

回	授業内容	備考（利用サイト、他）
1	ガイダンス ネット活用のセキュリティ、ネットモラル	IPA 情報セキュリティ普及啓発映像（YouTube）
2	グループウェアサイトの活用 ネット活用のセキュリティ、ネットモラル	サイボウズ Live
3	サイボウズ Live でのグループ活動実践	サイボウズ Live
4	Google 検索機能と情報ハンティング課題	Google 検索
5	GoogleChrome の設定と活用	Google アカウントサービス
6	GoogleChrome の設定と活用	Google アカウントサービス
7	EverNote の活用	EverNote
8	ストレージサービスの活用	Google ドライブ
9	ネットアプリの活用 CMS の利用　Wix サービスの使い方	Google ドキュメント
10	CMS の活用課題 一身田寺内町の店舗 Web サイトの構築 ページ作りのための店主とのディスカッション	Wix 各グループで店舗取材
11	Wix の使い方	
12	Wix での課題制作	
13	Wix での課題制作	
14	仮完成・公開・相互評価 Google フォームによるアンケート作成・実施	Google フォーム
15	Google アンケート結果整理報告	Google スプレッドシート 宿題で Web 試験

2016 年度は、9 回目の後半から、CMS サービス Wix を使って、一身田寺内町にある 4 つの商店の Web サイト構築を課題とした。10 回目の授業では、店主が来学し、どのような Web サイトを希望するかを学生に説明した。それを受けて学生が作りたい商店を選び店舗ごとにグループとなり、店主とサイトの内容やデザイン等についてディスカッションした。取材等の情報収集は一緒に行うが、サイト構築は、一人で行う。完成した作品の中で店主が一つを商店の正式なサイトとして採用することを当初は検討していたが、学生のすばらしい作品群を前にして、学生と一身田商工振興会の連携こそ地域に知ってほしいということで、完成した学生作品すべてを掲載することとし、継続的な連携ができることを考えた。

3.　Wix システムについて

3.1 Wix サービスの優位点

Wix は CMS サービスの一つである。Web サイトの目的によって分類されたテンプレートから選び、タイトルやメニュー構成、文章、色、画像などを変更するだけで、素晴らしいデザインの Web サイトが構築できる。カスタマイズするツールも使いやすく、Facebook や Instagram などの SNS との連携や、GoogleMap、メール送信やブログなどの機能を手軽に加えられる。デザインと機能的にも優れたサイトが HTML や CMS の知識がなくとも構築できる。

3.2 授業での利用

当コースでは、HTML や CSS などについて、学生は 1 年次科目「Web デザイン」で学ぶ。Web デザインを専門とする学科コースではないので、本学的な Web 制作技能を身につけるのではない。仕組みを学び制作の体験は無駄ではなく、様々な種類のファイルを扱いネットを活用することが、情報活用能力を高める。しかし、学生には難しいという印象が残り、学修に対する達成感や充実感は乏しい。それが Wix を使った Web 作品制作は、学生の達成感は高い。

今後もネットサービスは多様で高度なものが提供されていくだろう。学生が卒業してから自立して情報社会の中で活躍していくには、ネットサービスを自ら活用できる能力は必須であろう。新たなサービスをどう活用するかを考えることができる力を身につけるには、ネットサービスを活用するリアルな体験を積むことが有効であろう。

2014 年度は、学生に自由な作品を作らせた。2015 年度からは連携課題を与えることができた。2015 年度は、一身田寺内町や高田専修寺お七夜の様子の広報サイトを課題とした。2016 年度は一身田寺内町にある 4 つの店舗の Web サイト構築を課題とした。

4.　成果

完成した学生の作品を図 1 の各年度のトップページから参照できるようにしている。図 2 は、学生作品のトップページ例である。コースの情報教育は、コンピュータを実践的に活用できる能力育成を目指しているが、コンピュータの課題が、課題のための課題では、単位をとることだけを目的とした意欲の低い学生も出てくる。地域で求められるものを作成し実際に使ってもらえるというリアルな課題、そしてそれが地域の貢献につながるということが学生の取り組み意欲を高める。毎回の授業後の振り返りアンケートのコメント（表２）からも確認できた。

表２　学生の声（抜粋）

==========

・新しくホームページを作った、取材に行ったりすることになったので楽しみです。
・これから田中屋さんと協力して良いホームページが作れるといいなと思いました。田中屋さんも自分たちも納得のいくものが作りたいです！
・Wix は・・・、テンプレートが用意されていてとても作りやすいと思った。web デザインが苦手な私でもやりやすいなと感じた。
・ホームページをほぼ完成させることができた。間違いがないかしっかり確認して、細かいところも修正していきたいと思った。
・もう少しで出来上がりそうです。ホームページを作るの初めてですが、とても楽しいです！！

図 1　作品サイトへのトップページ
※左 2015 年度 http://isshinden.wixsite.com/2015work
右 2016 年度 http://isshinden.wixsite.com/work2016

図 2　2016 学生の作品（トップ）例

5.　今後の検討課題

今回は、地域連携継続の視点に立ち完成作品全ての公開をした。地域の視点にたてば、商店のサイトは日常業務で運営されてこそ役に立つが、年に一度の地域貢献課題では日常的な支援はできない。商店サイトが学生作品をベースに自立して運用できるまでの支援ができ、それが学生の学習にもなる方法（ゼミ活動や複数科目の連携など）を検討したい。

また、学生の作品群に対する評価を商店の店主にお願いしたが時間的な制約があり学生へのフィードバックができなかった。学生同士が Google フォームを使って互いに評価をする試みもしたが、こちらも評価の視点がばらばらで有効に機能しなかった。

サービスラーニングにおけるルーブリック評価について、地域ボランティアによる学生評価や学生の自己評価を進めている(3)。この活動におけるルーブリックを開発し、店主による評価や自己評価ができるよう検討を進めたいと考えている。

参考文献

(1)　文部科学省中教審：“将来像答申”（2005）
(2)　内閣府経済社会総合研究所：“大学等の知と人材を活用した持続可能な地方の創生に関する研究会報告書”，研究会報告書等，No74（2016）
(3)　白井,鷲尾,原田：“サービスラーニングにおける COMMON　RUBRIC の検討”，名古屋女子大学紀要，63 巻，pp.75-87（2017）